

行動宣言 実践事例集

[代表事例版]

令和5年度実施分



一般社団法人 札幌建設業協会



一般社団法人 札幌建設業協会

〒060-0004 札幌市中央区北4条西4丁目1 札幌国際ビル3階
Tel:011-261-6182 Fax:011-251-2315



岩田会長挨拶

(一社)札幌建設業協会は、平成28年5月に創立百周年を迎え、次の100年に向けて、「3つの心」を持って「5つの行動」を実践していくことを決意し、地域を支え、真に地域から頼りにされる建設業を目指していくこととしています。

この宣言に基づき、令和5年度に取り組んだ具体的な事例をとりまとめ、会員企業が情報共有し相互の事例を学び合うことで、行動の質や量を高めていくとともに、本代表事例版により広く発信することにより、建設業の様々な取組を多くの皆様に理解していただけるものと期待しています。

令和6年12月

一般社団法人 札幌建設業協会会長
岩田 圭剛



行動宣言「2016」

地域を支える建設業として心に留める3つの心

ものづくりの心 **人を守る心** **地域づくりの心** を持って、

次の5つの行動を実践していきます。

- ① 環境問題に対応し、優れた技術により高い品質を確保します
- ② 労働環境の整備に努め、担い手の確保育成を推進します
- ③ コンプライアンスと安全管理の徹底に努めます
- ④ 災害への迅速な対応に努め、地域強靱化を支援します
- ⑤ 建設業の魅力を発信し、地域の振興と発展に貢献します



令和5年度の実績概要

各会員企業から寄せられた令和5年度の実績事例は541事例であり、その内訳は次のとおりで、会員企業ごとの代表事例をひとつ取上げ、次ページ以降で紹介いたします。

1 行動区部門 (5つの行動ごとの実践事例)

- ① 環境保全・品質確保 (99事例: 32社)
- ② 労働環境改善・担い手確保 (117事例: 33社、協会事務局)
- ③ コンプライアンス・安全管理 (86事例: 32社、協会事務局)
- ④ 災害対応・地域強靱化対策 (79事例: 33社、協会事務局)
- ⑤ 魅力発信・地域振興 (108事例: 34社、協会事務局)

2 普及定着部門 (行動宣言を社内等で普及拡大していくための施策事例)

- ① 社内における取組 (32事例: 28社、協会事務局)
- ② 社外における取組 (20事例: 17社、協会事務局)

代表的な実践例の紹介

荒井建設株式会社「高校生と都市景観づくりを協働」

1-5

地下鉄南北線南平岸駅前の建築工事現場に設えた白い仮囲いを大きなキャンパスと見立て、「都市景観とコミュニケーション」をテーマに、そこへ彩りを加えるプロジェクトを地元高校生と協働で取り組みました。札幌平岸高校の生徒32名が制作したアート作品を「マチカド美術館」と称し掲示したほか、地域の歴史や文化にちなんだ“南平岸7つのよもやま話”、デジタルサイネージ動画などで、まちづくりと建設業の魅力を発信しました。



平岸高生たちとマチカド美術館をコラボ

勇建設株式会社「勇建設グリーンカーテンプロジェクト」

1-1

ゼロカーボン社会の実現に貢献すべく、本年より本社で種から育てたグリーンカーテン(ゴーヤ、インゲン、ヘチマ、アサガオ等)を本社、札幌市内、近郊の現場事務所に設置しました。植生によるCO2の吸収、日射エネルギーを抑制し空調で使用するエネルギーの削減効果、視覚的、精神的な癒しを与える効果、近隣の子供を招き収穫体験の実施といったコミュニケーション効果が得られ、次年度は本年以上に設置件数を増やしたいと思えます。



現場事務所へのグリーンカーテン設置

板谷土建株式会社「町内会の資源回収事業への参加協力」

1-5

ゼロカーボン活動の一環として、社内にリサイクルボックスを設置して、町内会の資源回収活動へ積極的に協力しはじめたところ、シュレッターくずも回収可能と聞き、今まで専門業者に処理を依頼していた保存期限切れの機密文書を、隙間時間にシュレッター処理し資源回収してもらうことにしました。

会社の経費削減、町内会の収入アップで町内会長から感謝され一石二鳥の結果となりました。



リサイクルBOXと町内会の資源回収状況

伊藤組土建株式会社「温室効果ガス削減に向け、SBT(Science Based Targets)認定を取得」

1-1

当社は、2030年度に向けた温室効果ガス排出削減の目標をSBTイニシアチブへ提出し、SBT認定を取得しました。

SBTとは、産業革命前と比べた世界の平均気温の上昇を1.5℃未満に抑えるという温室効果ガス排出削減目標のことで、企業が環境問題に取り組んでいることを示す目標設定のひとつとして、2015年のパリ協定をきっかけに誕生しました。

当社は、スコープ1・2の温室効果ガス排出を2030年までに50%削減する目標設定をしたほか、スコープ3の排出量を測定して削減することを約束しました。



SBTロゴ

岩田地崎建設株式会社「建設現場のICT化を目指す協働実験」

1-2

「マルチセーフティまもり隊DX」(HK-240006-A)は、(株)ダブルクリック、道内各地の建設会社と共同試行し、NETIS登録技術に認定されました。

運転手、作業員の健康状態と位置情報(座標)を管理し、安全管理と施工管理能力の向上と生産性向上を図るためのウェアラブルIoTツールです。

バイタルビーコンの生体情報とスマートフォンの位置情報をもとに作業員の健康状態と危険行動を管理するシステム。本技術の活用により作業員の疾病リスク、重機との接近防止の監視が可能となり安全性が向上しました。



マルチセーフティまもり隊DX(HK-240006-A)

株式会社石山組「環境美化活動」

1-1

豊平区アダプト制度に基づく道路清掃活動や冬季間の砂まきを国道36号線などの豊平4条3丁目エリアで実施しています。平成30年6月本社移転前の中央区アダプト制度加入から通算して15年間継続して活動を実施しております。

ご縁あってこの地に営業している以上地域貢献も重要な継続活動としてこれからも行っていく所存です。



活動中ののぼり旗を持って歩行者に注意!

岩倉建設株式会社 「SDGsゼロカーボン推進活動」

1-5

当社が掲げるSDGsゼロカーボン推進活動の取り組みの一環として、北海道森林管理局と千歳市紋別国有林(4.98ha)の分収造林契約を締結しました。初夏を思わせる陽気の中、役職員30名が参加して分収林に鍬で土を起こしトドマツの苗木300本を植樹しました。

来年度は、植樹した苗木の成長を妨げる雑草等の草刈り作業を行う予定です。



千歳市紋別分収林の造林(植樹)活動

恵庭建設株式会社 「働き方改革」

1-2

社員の労働時間見える化や時間外労働の削減、年次有給休暇の取得数に応じた旅行券の支給などにより取得促進を行い、北海道より「北海道働き方改革推進企業認定制度」ゴールド認定企業を受けています。



北海道働き方改革推進企業認定制度「ゴールド認定」

株式会社大庭組 「アダプト制度に基づく環境美化活動」

1-5

4月から11月の毎月10日、南6条～南7条西15丁目エリアを道路上のタバコの吸殻及び空き缶等のごみ拾いや違反広告物の撤去を行い、12月から3月までは凍結路面の滑り止め材の散布をしております。



朝の涼しい時間帯に活動しております

機械開発北旺株式会社 「車いすの寄贈」

1-5

建設業における地域社会への貢献活動の一環として、工事現場に隣接する社会福祉法人雨竜ことぶき会「特別養護老人ホーム雨竜寿園」に対して、入所者の日常生活における利便性向上の視点から、移動に役立つ車いすを寄贈しました。



特別養護老人ホーム雨竜寿園への車いす寄贈

草野作工株式会社 「カーボン・オフセット」

1-1

本社・現場の照明設備のLED化、HV車の導入、ソーラーパネルの利用等、様々な取組を実施しています。さらにダンプトラック、重機に使用する化石燃料による排出量をゼロにすることは困難なため、受注工事における排出CO2の10%に相当する約276tについて、276万円(10,000円/CO2t)を自然保護団体に寄付することで、森林がCO2を吸収するカーボン・オフセットに取り組みました。



カーボン・オフセット新聞記事

こぶし建設株式会社 「現場見学会の開催」

1-5

地元高校生に対し、授業では得られない現場の雰囲気などを体験してもらうことで、建設産業への理解と関心を深めてもらうことを目的とし、岩見沢農業高等学校(農業土木工学科)の学生を対象に、2014年より毎年現場見学会を開催しています。

この体験が、若者にとって魅力的な業界であることを知るきっかけとなり、建設産業の将来を担うことを願って、今後も継続して開催していきます。



現場見学会の様子

札幌土建工業株式会社「インターンシップ受入」

1-2

毎年、北海道札幌工業高等学校の生徒によるインターンシップ就業体験を実施しています。令和5年は4日間の日程で、建築科の生徒2名に建築工事の施工管理を体験してもらいました。

若手社員が現場業務について説明し、具体的な施工管理の就業体験を指導しました。

指導中は建設業のやりがいや面白さの話題も提供し、生徒が興味を持てるようにしています。



工事現場のインターンシップ就業体験

株式会社沢田建設工業「北海道フロンティアキッズ育成事業」

1-5

少子高齢化・人口減少社会を迎える中、環境・経済・社会に配慮した持続可能な社会を築いていくためには、地域コミュニティを牽引する若い人材の力が不可欠であることから、次代を担う小学生を対象にしたSDGsを活用した環境教育『北海道フロンティアキッズ育成事業』を協力支援しております。

また、地元のスポーツ振興と青少年育成を支援しております。



地域青少年スポーツ活動への支援

新太平洋建設株式会社「流域治水オフィシャルサポーター認定」

1-4

激甚化・頻発化する水害から国民の生命と暮らしを守るための新たな水災害対策である、流域全体で治水対策に取り組む「流域治水」において、「流域治水オフィシャルサポーター」として、企業、団体等のあらゆる関係者と連携し支援を行っています。



流域治水サポーターとして自治体を支援

杉原建設株式会社「全技術職員にタブレットを支給」

1-2

技術職員全員にタブレット(iPad)を配付し、現場事務所内だけでなく、現場へ従事している際にもタブレットを携帯しています。

内勤時は、会議・打ち合わせの際の資料閲覧及び記録ツールやリモートによる会議として、現場では、施工管理での図面確認や社内検査でのリモート中継など様々な場面で活用し、業務の合理化を図っています。



現場でのタブレット活用状況

株式会社鈴木東建「レジリエンス強化型NearlyZEB基準の社屋新築」

1-4

本社社屋新築に際して、災害時のエネルギー自立を図るレジリエンス強化とともに近隣住民の一時避難場所として利用可能な建物とするため、太陽光パネル・蓄電池による災害時の電力確保、一時避難場所として会議室や女子更衣室の開放等の設備を整えました。

また太陽光発電や外断熱工法等により省エネ化を図り、エネルギー消費量を省エネ+創エネで従来の建物比77%削減する設計としNearlyZEB基準に合致させました。



新社屋の外観

株式会社田中組「奨学金代理返還制度の実施」

1-2

日本学生支援機構から職員が借りた奨学金の返済額の一部又は全額を、企業が肩代わりする制度です。弊社は令和5年度より当制度を導入し、1人当たり年間12万円の支援を行っています。

近年の建設業界の人手不足対策として、支援の手厚さをアピールし人材の獲得と定着を目指しています。

奨学金の返済期間が短縮されることにより、職員の経済的な負担と不安の軽減に繋がっています。



会社説明会用資料の1ページ

株式会社玉川組 「相生町自治会との合同災害対策訓練」

1-4

恵庭南消防署立ち合いのもと、相生自治会と合同で災害対策訓練を行いました。玉川組職員は、本社が火災の想定で避難訓練を行い、相生自治会は避難場所に指定されている弊社駐車場への避難訓練を行いました。その後、消火訓練、AED講習、恵庭市による災害対策講習会が行われました。

今後も、地域の皆様と共に訓練を実施していきたいと思っております。



AED講習の様子

道興建設株式会社 「サケの産卵床環境改善への参加」

1-5

豊平川の自然産卵で世代交代する野生魚を増やすことを目的に、2017年から札幌ワイルドサーモンプロジェクト(SWSP)に参加しています。

サケの産卵に適した河川環境が減少しているため、サケの産卵環境の改善を目指し、閉塞した水路の復旧や産卵場所であるワンド内のシルトを排出させ砂利を露出させる等の活動を行いサケの産卵床の増加に貢献しています。

2022年以降は、情報看板の設置や河畔の草刈りを実施してサケの観察ができるように整備しました。



豊平川の産卵場所を草刈りしている写真です

道路工業株式会社 「大学授業への社員派遣」

1-5

令和5年10月17日に北海学園大学工学部の3年生を対象として、『舗装技術の紹介』と題して講話をさせていただきました。

普段何気なく目にする道路の舗装について、断面構成や試験方法などの基礎的な内容のほか、寒冷地舗装が抱えている課題やデジタルを活用した最新の施工技術について説明を行い、「舗装」への関心を高めるよう取り組みました。



北海学園大学工学部卒業生による講話の様子

中井聖建設株式会社 「建設DXの推進」

1-2

建設DXの推進を通じて、業務の効率化、品質向上、安全性の確保を実現します。

最新のデジタル技術を積極的に活用し、施工管理アプリや遠隔臨場技術を導入しました。

全社員が一丸となり、デジタル化の恩恵を最大限に活かし、今までとは変わった建設現場を作り上げます。

お客様に高い付加価値を提供し、持続可能な社会の実現に貢献します。



勉強会の写真

株式会社中山組 「LEDチューブライトによる工事照明」

1-2

現場内にLEDチューブライトを設置し、常時照明を行うことで最も照度が確保しにくい橋の下において照度を確保するとともに薄暮時や作業員の帰り道での明りを確保しました。学校の生徒の帰り道での照度の確保にも役立ち好評でした。



実施状況

株式会社西岡建設 「円山動物園のホッキョクグマなどの動物に氷を贈呈」

1-5

夏場の暑い時期にホッキョクグマたちに冷たい氷を楽しんでもらおうと毎年実施しているもので、令和5年度は社員16人が作業に参加し、ホッキョクグマを始め、アムールトラやチンパンジーにフルーツやお肉の入った氷や、クラッシュアイスなどを贈りました。

動物園に来園されていたお客様にも、大変好評でした。



氷で涼むホッキョクグマ

萩原建設工業株式会社「建設事業無災害表彰を拝受」

1-3

弊社が施工した「(仮称)札幌市中央区南2条西11丁目事務所ビル計画新築工事」にて、全工期を通じて無災害かつ安全管理水準が良好であると認められ、令和6年1月31日に厚生労働省労働基準局長より建設事業無災害表彰状を拝受いたしました。

この先も気を緩めることなく、無災害工事の施工を社員一丸となって行ってまいります。



この先も気を緩めず無災害を継続いたします

一三北路株式会社「携帯端末LiDAR計測による労働協環境改善へのチャレンジ」

1-2

札幌市近郊での冬期の除排雪作業において、iPad及びiPhoneを用いてLiDAR機能(Light Detection And Ranging:光を用いたリモートセンシング技術で、レーザー光の反射を利用して、物や地形の距離を読み取ることが可能)を活用し、施工範囲や積雪量算出などを行い、労働環境改善へ繋がる活動として安全性向上および、効率化と生産性向上のチャレンジを行いました。



携帯端末LiDAR計測による実施状況と結果検証

株式会社藤井工務店「初心者をサポートする教育体制」

1-2

「採用・育成・定着」をテーマに、新卒採用を中心に型枠大工技術職員の待遇改善・初年度の研修プログラムを策定し、教育訓練を行っています。

建設業未経験者を対象に約1年間の教育訓練カリキュラムのうち、型枠大工としての専門的知識・基礎的な技術力を身に付けることを目的としています。

また、集合訓練を主として行うことで、コミュニケーション能力及びチームワークを活かす型枠大工技能者の養成を行っています。



実技訓練としてミニチュア型枠を製作

北土建設株式会社「ユースエール認定企業の認定」

1-2

積極的な若者の採用・育成を図り、若者の雇用管理状況等が優良な中小企業として厚生労働大臣の認定を受けました。

月平均所定労働時間、有給休暇の平均取得実績、新卒者の離職率の低さ等の認定基準を満たしました。

また、人材育成の制度として資格取得費用などを全額支援する制度や内定者の研修制度・インターンシップの受け入れ・職場見学等にも対応し、入社希望者への支援を積極的に行っています。



ユースエール基準適合事業主認定通知書

株式会社丸竹竹田組「札幌村郷土記念館への改修工事の寄付」

1-5

『地域の歴史を後世に継承していく施設の存続』を目的に、長期にわたる建物の破損・劣化部分をリニューアルすることで、施設に来館しやすい環境を作りました。

また、耐久性のある材料を使用し、施設メンテナンスの軽減化を図りました。

来館する誰もが快適に安心して利用できる施設づくりに協力します。



札幌村郷土記念館の収納棚の設置工事

丸彦渡辺建設株式会社「社屋1階ロビーにおける展示イベント」

1-5

盲導犬のパネル展、盲導犬との触れ合いや所長とのトークセッションを実施したほか、サマーコンサート及びクリスマスコンサート、北海道文化団体協議会と連携した健常児、障がい児の垣根を超えたこどもアール・ブリュット北海道みらい作品展の移動展示なども開催、無料で一般開放し、地域の皆様へ音楽や美術に触れていただける場を提供しています。



こどもアール・ブリュット北海道みらい作品展のチラシと展示の様子

宮永建設株式会社 「地域環境美化活動」

1-1

「ごみゼロの日」と「札建協の日」に合わせて、地元当別町内を流れる旧当別小学校前のパンケチュウベシナイ川周辺の草刈・ごみ拾い及び町道の清掃を役職員40名で実施しました。刈払機での草の刈取り、人力で土のう袋への集草及びユニック車で撤去を行うと共に、町道の路肩にたまった砂じんは竹ぼうき等で集め、自社所有のバキューム車で吸い取り回収しました。毎年地域の環境美化に少しでも役立ちたいという思いで行動しております。



河川敷の草刈状況

宮坂建設工業株式会社 「北区アダプト清掃活動」

1-1

北区アダプト制度に基づく道路清掃活動を平成22年より毎年実施しており、14年目になります。

支社周辺の歩道等で夏場は空き缶やたばこの吸い殻などのごみ拾い、冬場は消火栓除雪や交差点の砂まきを、北14条西2~4丁目間で実施しております。

今後も活動を通して、地域の環境美化に貢献していきたいです。



歩道等のごみ拾い

山崎建設工業株式会社 「スクールガード活動」

1-5

小学校の防犯・交通安全対策会議に参加するとともに週2回学校周辺を車両によるパトロールを実施し、不審者による犯罪、交通事故などを無くすための一助となるよう活動しています。



小学校前をパトロール中の車両

株式会社山田組 「高校生インターンシップ受入」

1-2

2019年より、毎年岩見沢農業高等学校環境造園科の学生を受け入れてインターンシップ就業体験を実施しています。

今年度は6/7(水)から3日間、下水道管更生工事の実習体験と新千歳空港工事の現場見学会に参加しました。

最終日には同校卒業後に令和5年入社の子社員から、今後の進路選択に役立つよう現場の業務内容や職場環境についての実体験を聞いてもらい建設業への理解を深めてもらいました。



本社にて現場での仕事内容の説明

(一社)札幌建設業協会事務局 「名刺用行動宣言テンプレートの配布など」

2-1

協会役員及び事務局職員の名刺の裏面に「3つの心と5つの行動」を記載し、協会活動を広く発信、伝えることを積極的に行っています。

また、行動宣言の普及啓発資材として、財布や定期券入れ用の携帯カード、行動宣言クリアファイル、名刺用テンプレートを製作し、会員企業に配布するなどして、協会会員の一人ひとりが宣言の内容を理解し、意識をもって行動を実践していただく一助として活用してもらっています。



携帯カード・名刺用テンプレート

動画・漫画でわかる建設業 ただいま工事中!!

協会ホームページで公開中! ぜひご覧ください! <http://www.sakkenkyo.jp/>

